

国家資格 電気工事士21人合格

2025年(令和7年)2月1日 土曜日

南信州新聞

OIDE長姫高

国家資格21人が取得

OBや仲間の協力に感謝

飯田OIDE長姫高校の生徒21人が、国家資格の第一種電気工事士試験と第二種電気工事士試験に合格し、1月29日、宮澤直哉校長に喜びの報告を行った。

電気電子工学科と電子機械工学科の生徒が昨年12月に資格試験に挑戦した。第一種電気工事士は、高電圧設備の工事に従事するために必要な国家資格で、筆記試験と技能試験の両方に合格する必

要がある。本年度は14人が受験し、3年生4人、2年生6人が合格した。仲間とともに主体的に筆記試験の勉強に取り組む、技能試験に向けては、すでに現場で働くOBの指導を受けながら確かな技術を身に付けた。

第二種は屋内電気配線工事に従事するために必要な国家資格で、第一種と同様、筆記と技能の試験に合格する必要がある。16人が受験

し、3年生4人、2年生3人、1年生4人の計11人が合格した。オンラインによる自宅学習で学科試験に臨み、すでに合格している2、3年生から技能指導を受けるなどし、休日返上で集中的に取り組んだ。

宮澤校長は「取得に向けて協力してくれたOBや仲間への感謝を忘れずに。合格を励みに、3年生は卒業後の進路に役立てること、1、2



第一種・第二種電気工事士資格取得を報告した生徒

年生はさらなる学校生活の充実に向けて頑張っしてほしい」と言葉を贈った。

松尾地区文化祭に テックレンジャー出演

2025年(令和7年)2月5日 水曜日

南信州新聞

住民集う交流の場に 松尾地区で文化祭盛況

飯田市松尾地区の文化祭が1、2の両

日、松尾公民館で開かれた。幅広い世代の住民が訪れ、展示や催しを通じて交流を深めた。

同館文化委員会などでつくる実行委員会が主催し、毎年開いている。

初日は、同地区に伝わる民話を題材にしたアニメーション「うしろむき弁天ものがたり」のお披露目上映があった。天

童川の弁天岩にまつられる弁天様の領有を巡って争う住民や、いつの間にか向きを変える弁天様の不思議を描いている。この日は子ども

から大人が鑑賞し、地域の歴史や教訓を民話から学んだ。

2日には恒例の芸能発表会が開かれ、

多彩なジャンルの17団体が出演。獅子舞や合唱、フラダンスなどが次々とステージを繰り広げた。



芸能発表会では多彩な団体が出演した

飯田OIDE長姫高校のコンピュータ制御部が演じるヒーロー戦隊劇「高校戦隊テックレンジャー」によるショーもあり、ヒーロー役が悪役と戦う場面では「がんばれ」などと声援を送る子どもたちの姿があった。

実行委員長の鎌倉豊公民館長は「地域の方々がつながり、交流する場となった。今後も一歩ずつ前進し、親しみ楽しめる文化祭を開ければ」と話していた。

2月10日・12日に 高校入試前期選抜を実施しました

2025年(令和7年) 2月12日 水曜日

南信州新聞

飯田下伊那は582人臨む

県立高校の前期選抜

2025年度県立高校入試の前期選抜が10日、県内一斉に行われた。飯田下伊

那地域では飯田と飯

田風越の普通科を除く7校14学科が408人を募集し、582人が出願。志望校を会場に、今回から

導入された学力検査や個人面接に臨んだ。

自己推薦型の前期

選抜は調査書と面接に加え、学力検査の成績などを総合的に判定して合否を決める。

員に対する平均倍率は前年を0.02割上回る1.42倍だった。

学科別では、下伊

那農の地域資源が2・17倍で全県で最も高く、飯田OIDE長姫の電気電子工学と建築学がともに1・83倍、社会基盤工

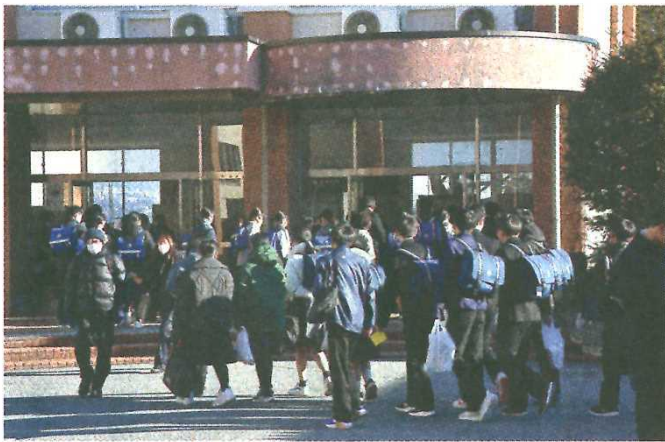
学が1・71倍、下伊那農の栽培科学が1・63倍と続いた。ほかでは、飯田の理数が1・07倍、飯田風越の国際教養が1・17倍、普通科では阿智が1・56倍、松川が1・35倍などとなった。

平均倍率の1.42倍は、第3通学区全体の1.40倍を0.02割上回り、全県平均の1.31倍を0.11割上回った。

全県の全日制では、普通科の平均倍率が1.18倍、農業科が1.59倍、工業科が1.35倍、商業科が1.60倍、家庭科が1.54倍、理数科が1.30倍、国際関係学科が1.13倍など。全日制は募集人員4290人に対し、5613人が志願した。

合格発表は2月19日。各校が午後1時以降に合格者の受験番号を校内に掲示する。ホームページへの掲載は同2時以降に行う。

後期選抜は2月26日～28日に志願、3月3日～5日に志願変更を受け付け、3月11日に学力検査を実施する。合格発表は21日に行う。



試験会場に入場する志願者たち（下伊那農高）

本校志願の265人が 学力検査・面接検査に臨みました

地元企業 (NSK マイクロプレジジョン様)

原動機部を支援

2025年(令和7年) 2月16日 日曜日

南 信 州 新 聞

地元企業が活動をバックアップ

OIDE長姫原動機部に部品提供

精密機器 NSK

松川町に工場がある精密機械メーカー「NSKマイクロプレジジョン」が13日、飯田OIDE長姫高校原動機部に車両の駆動系への抵抗を減らす部品「ベアリング」を無償提供した。この日、関連会社の社員5人が同校を訪れ、部員を激励。来シーズンの活躍を期待した。



校内で開かれたベアリング部品の贈呈式

購入して交換していたが、昨年8月に部員がインターンシップで同社を訪れたことがきっかけになり、今回の支援につながった。

贈呈式では、同部がレース映像や車体の特徴などを紹介するスライドを渡し、活動を紹介。同長野支社(諏訪市)の中村鴻亜さん(27)が、部長の久保田洋太さん(17)に1年分の部品(6種類、約60個)を手渡した。

中村さんは「連覇が続くようこれから応援したい。依頼があれば届けるので、試作などにも使ってほしい」と激励し、長期的なサポートを約束。久保田部長は「ベアリングは根本となる大切な部品の一つ。確かな信頼と性能を持つ部品の提供は大変うれしい。期待に応えられるよう精いっぱい努力したい」と語った。

同部は次年度の大会に向け、車体を分解して整備を行っている。13連覇がかかっている「2025Ene-1」鈴鹿チャレンジは12月21日に予定されている。

駆動部用のベアリングを 提供していただきました

「技術を磨き次の目標へ」

飯田OIDE長姫高 年度も頑張つて」と
校の電気部が、岐阜県 激励した。

で1月に開かれたジャ
パンマイコンラリー
ー全国大会への出場を
同校同窓会に報告し
た。目標の優勝には届
かなかつたものの、部
員たちは「技術を磨き
次を目指したい」と語
り、須山和彦同窓会長
は「全国出場は同窓会
としてうれしい。仲間
や家族、先生の支えが
あったことを忘れず来
年度も頑張つて」と
激励した。

マイコンカーは、
コース上の白線をマ
シンに装着したセン
サーで認識し、左右
のタイヤの速度を変
えて進行方向を制御
しながら自動走行す
る完全自走式ロボッ
トで、大会はコース
を周回してタイムを
競う。

全国大会は予選ま
でと異なり当日にコ
ースが発表され、限
られた時間でマシン
の調整を行う必要が
ある。同部からは2
人が出場し、部長の
後藤桔梗さん(17)
が16位、増田陽さん
(同)が32位だった。
後藤さんは「練習通
りにいかなかった。
アクシデントがあっ
た時に乗り切る強さ
を身に付けることが
大事だと思った」と
振り返った。

OIDE長姫部 全国大会出場を報告



現地観戦した宮澤
直哉校長は「全国に
進んだことは素晴ら
しい。今後に期待し
たい」と言葉を贈っ
た。

電気部の全国大会出場報告会

増田さんは「来年
度の大会はもっと上
を目指したい」と決
意。後藤さんは「今度
は北海道で開催され
る。耐性の向上やグ
リップを強化するな
ど寒冷地対応で臨み
たい」と意気込んだ。
同校は2013年
度の統合後、8度
にわたり全国大会に出
場し、14年度に優勝
している。コロナ禍
で開催がなかった
20、21年度をほさみ、
18年度からは5大会
連続で全国大会へ出
場している。

電気部 ジャパンマイコンラリー 全国大会5大会連続出場を報告



前期選抜 合格者165人を発表

南信州新聞

2025年(令和7年) 2月20日 木曜日

高校入試

受験生にひと足早い春

前期選抜合格者発表



前期選抜合格発表の様子(飯田OIDE長姫高校)

2025年度県立高校入試・前期選抜(自己推薦型入試)の合格者発表が19日、県内各校で一斉に行われた。飯田下伊那地域では飯田と飯田風越の普通科を除く7校14学科で393人が合格。各校には保護者らが訪れ、掲示された番号を確認していた。(合格者番号は4面に掲載)

機械工学、電気電子工学、社会基盤工学、建築学、商業科の合格者計165人の番号が記載された紙が正面玄関に掲示された。待ち構えた保護者らは、受験番号を探したり、スマートフォンのカメラで撮影したりしていた。

子ども番号を見つけた飯田市の50代女性は「勉強はもちろん、有意義な高校生活を過ごしてほしい」と語り、安堵の表情を浮かべていた。前期選抜は10日で、飯伊7校14学科には募集人員408人に対して582人が出願した。平均倍率は前年を0.02倍上回る1.42倍だった。学科別倍率では、4学科から3学科に再編される下伊那農の学科の一つ、地域資源が2.17倍で全県で最も高かった。

合格者番号は各校のウェブサイトにも掲載された。後期選抜は26～28日に志願受け付け、3月3～5日に志望変更受付、11日に学力検査の日程で実施する。合格発表は21日。

社会に出る前に理解を

OIDE長姫高3年生対象

県司法書士会（小林雅希会長）は県内の高校生を対象にした「市民法律教室」を開いている。20日は飯田OIDE長姫高校で行い、3年生約160人が契約に関連するお金の話を中心に、心構えやいざという時の対処法などを学んだ。

社会に巣立つ高校生を対象に消費者教育を行う同会が悪質商法に狙われ、多額の借金を抱える被害に遭うことのないよう、基本的な法律知識を身に付けてもらうと20年ほど前から続けている。同校では阿智村の司法書士・柴田智行さん（44）が講師を務めた。契約には契約書が必要な場合と必要でない場合があることを示し、「大きな契約は双方にとって大事だから契約書を作ることが多い」と解説。

「大きな契約時には保証人を頼まれることがあるが、親しい友人であっても慎重になって」と呼び掛

司法書士会が法律教室

カードやスマートフォンを使えば、非対面でもお金を借りられる場合があることから、「ATM感覚で利用する人も多い」とも。「いきなり頼らず、まずは家族に相談してほしい」と呼び掛けた。

「社会に出るといろんな人に出会うことになり、大人扱いされるようになる。契約などの知識をあらかじめ身に付けておくことで、トラブル



県司法書士会が開いた法律教室

3年生を対象に司法書士会の

法律教室を開講しました

を回避できる社会人になって」と結んだ。

上郷地区地域づくりフォーラムで

本校3年生が発表を行いました

上郷 地域学習の成果発表

飯田市上郷公民館は 24日、本年度の「上郷地区地域づくりフォーラム」を公民館で開いた。小中高生が地域をフィールドとした探究学習の成果を発表。住民ら約70人が参加し、地域と学校教育の関わりを考えた。

飯田市上郷公民館は 上郷小学校と高陵中学校、飯田OIDE長姫高校の児童生徒がそれぞれ成果を発表した。

地元の材木店や建築会社と連携して木製のモルックを手作りした上郷小5年4組は、活動を通して学んだことを報告。関心のあるテーマを設定して個人やグループで学びを深める探究学習に取り組む高陵中は、2年生の代表2グループが登壇し、「飯田市の発電と環境」「リニアについて」をテーマに語った。

OIDE長姫高は商業科3年で地域人教育の上郷班が1年間の活動を報告。上郷産のロングを使ったオリジナルスイーツの開発や、野底山森林公園の紅葉ライトアップでの竹筒製作などを振り返った。

学園構想の説明では、教育課の担当が市内の小中学校教育を取り巻く状況や構想の方向や狙いを紹介した。

学園構想の説明では、教育課の担当が市内の小中学校教育を取り巻く状況や構想の方向や狙いを紹介した。

地域づくりフォーラム 児童生徒が住民前に



小中高生が地域学習の成果を発表した

発表を聞いた上郷 する姿は頼もしい「地域まちづくり委員会」として、学園構想について「地域として連携、協力できる形を」子どもたちが地域に目を向け、仲間と探っていききたい」と協力して課題を探索話していた。